

2015 年 5 月 28 日

原告最終準備書面

吉田・小川と知り合ったのは、2010 年 10 月 24 日検察糾弾デモ、この後に我がhpに吉田・小川が主張する柏市戸籍改竄事件の概要と、送られて来る事件資料を掲載したが、意見交流はすることなく、一年余が過ぎて吉田とのメール交換が始まった。戸籍事件は民事事件ゆえか、吉田・小川は我が刑事再審事件が理解できず、また両者は法的思考が欠けており、当方も民事事件には関心が無い。相互に理解は不十分であるが、吉田も小川も公権力による犯罪被害者を称しており、検察・裁判所糾弾では意志一致して連帯しての闘いに鋭気を研いだ、ところが半年過ぎて始まった吉田とのメール交換から事件屋ではないかとの疑惑が生じて、これを調査したところ、吉田は組織暴力団・極東会関与、小川は指詰している事実が浮上して両者との関係解消をした。これを裁判沙汰になどはする積もりは全く無かったが、坪井・北詰が繰り広げるデタラメ判決掲示上での誹謗中傷・個人情報流布に、吉田・小川は合流しての違法行為を提訴してきた。

<p>From: • 吉田 卓郎 2011/11/25, Fri 15:13</p> <p>昨日はお疲れさまでした。 お話の公示送達の件ですが、取得方法を具体的に指示して下さい。 それから例の件は今月中か来月の頭ぐらいにはビールを飲みながら合宿勉強会をやりましょう。、</p>	<p>吉田卓郎と名乗っている、裁判になり始めて”卓郎”に訂正した、一字違えば他人だ</p>
--	---

<p>事件屋の訴訟目的は、裁判を口実にしてインターネットで相手の実名を暴き、威嚇・恫喝させて、訴訟の取り下げ・示談強要にある。以下は小川訴訟の判決書より抜粋。</p> <p>(6) 被告の柏市戸籍改ざん事件についての主張は、国家司法との戦いと見せているが、狙いは、確定している民事裁判の相手への恐喝行為である。</p>

最高裁の裏判(解決するという決断)が必要なのです。それらを踏まえて、俺は最高裁に即決させる方法を考えましようと言っているのです。それには足利事件、高知白バイより激しい化学変化を促す触媒が必要です。と言っているのです。証拠など屁の役にもなりません。盗人法務のゴロツキどもには通用しないのです。法律論では奴らの壁は突破できません。だから悪には悪知恵で対抗しようということです。知能、知恵では太刀打ち出来ないが悪知恵なら俺に一日の長がある。俺が勝てるのは悪知恵さ。敵の本音を読ませたら一流？さ。敵の心理を分析、その後から悪知恵さまが活躍するのです。知恵と悪知恵は併用可能です。知恵悪知恵の両面作戦で巨象に挑むのさ。戦いの巾を広げようということ。その悪知恵とは触媒のことです。なんか狐につままれたような感じでは？

以上